

ちょうさきょうりよく 調査協力のおねがい

ぜんかい げんばつうしん (138号)で、12月1日現在、特別清掃に登録されている方の3人に1人が生活保護になり、特別清掃を卒業している事実を報告しました。その結果、昨年まで月3,4回だった輪番が、月6回、基金事業の場合は月8回まわるようになり、今までの約2倍の収入を得ることができるようになりました。しかしながらその収入は、飢えをしのご糊口になっても、野宿から抜けだしドヤに泊まるのに十分なものではありません。

りんぱんろうどう のじゆく せいかつ いじ 生活を維持するための仕組みではなく、野宿から抜けだすための「きっかけ」になる大事な仕組みだと考えています。野宿から抜けだすには、「就労」と「生活保護」の二つを組みあわせていく必要があります。

そこで「なぜ生活保護申請をしないのか」、「どのような援助があれば仕事をしながら野宿から抜けだせるのか」をあきらかにすることを目的に、調査をおこないたいと思います。

りんぱんろうどうしゃ げんしょう ねんど さいらいねんど いこう よさん おおはば しゆくしょう 輪番労働者の減少により、2011年度(再来年度)以降、予算を大幅に縮小する方向で、行政が動きだす可能性もあります。行政に対しては、予算を縮小するのではなく、ぎやくに特掃を、野宿やシェルターから抜けだすことのできる、より有効な施策にしていくこと、そのためにはどういった支援が必要かを、今年の5月には提案していく必要があります。そのための資料として、今回の調査の結果を用いきたいと思います。

さむいなかですが、協力をおねがいします。

2010年1月23日

釜ヶ崎支援機構